

社会科学学習指導案

単元名「第3章 日本の諸地域 近畿地方」

令和7年10月 第2学年 指導者 伊藤 靖浩

I 単元の構想

1 単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編における「C 日本の様々な地域」の項目（3）日本の諸地域に当たる。この項目は、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、地域の特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。そうした学習の全体を通して、日本の諸地域の地域的特色や地域の課題とともに事象間の関係性を理解できるようにすることが求められている。

また、既習の知識や技能を生かすとともに、地域の課題を見だし考察するなどの社会参画の視点を取り入れた探究的な地理的分野の学習のまとめとして行うことが必要であり、主権者として、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を育むことが大切であるとされている。

本単元では、地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事象、地域の環境問題や環境保全の取組、地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある事象などを中核とした追究活動を行うことで、地域の広がりや地域の結びつき、人々の対応などに着目し、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、地理的な見方・考え方を養うことができると考えられる。

2 研究との関わり

研究のテーマは「自ら学びが進められる生徒の育成—学習を調整できる単元デザインと環境の設定を通して—」である。

本研究テーマを設定した主な理由として、研究協力校の生徒の実態から、次の二点の課題が挙げられる。

一点目は、学習課題が生徒にとって自分事として捉えにくく、主体的に学びに向かう場面が少なかったことである。二点目は、学習のまとめにおいて、表面的な整理にとどまり、思考が十分に深まらない場面が多く見られたことである。

これらの課題を克服するためには、生徒が課題意識をもち、自ら学びを調整しながら学習を進めることができる授業改善が必要であると考えた。

そこで、生徒が自ら問いを立て、社会科の視点を生かして追究し続けることができる学習デザインを構想する。また、調べた内容が問いの答えになっているかを振り返り、調整する時間を設けることで、単元全体を通して問いに対する追究が継続する学習の流れをデザインする。

さらに、学び方について「どこで、誰と、何をを使って学ぶのか」を生徒自身が選択する場面を設定する。調査活動においては、教科書や資料集、図書、ホームページ、動画など、それぞれの特性を踏まえながら、生徒が自分に合った方法で知識を獲得し、思考を深められるよう支援する。こうした学び方の選択を通して、自己調整力や学習への主体性の向上を図る。

3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	・地図や資料を活用し、近畿地方の自然環境や歴史的景観の保全及び、関連するほかの事象を読み取る技能を身に付け、近畿地方の地域的特色を理解することができる。	・これまでの日本の諸地域の学習では、九州地方、中国・四国地方の学習を通して、自然環境に関する資料や、交通・通信網による結びつきによる産業の発展の様子が分かるような資料を基に、地域の特色を理解する学習を行ってきた。ただ、主題図やグラフ等の資料を読み取る活動に対しては苦手な生徒が見られる。
思考力、判断力、表現力等	・自然環境や歴史的景観の保全に関わる取組を、人口の分布や住民の生活産業及び変化などに関連付けながら、原因と対策、効果の面から多面的・多角的に考察して表現することができる。	・これまでの日本の諸地域の学習では、地域の変化の様子や、地域が抱えている課題について、自然環境や人々の生活、産業の様子などと有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現をしてきた。しかし、諸地域の課題を自分ごととして

		捉えようとすることは苦手である。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点から見た人々の生活や産業の特色を、主体的に追究することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒は意欲的に学習に取り組むことができている。これまでの日本の諸地域の学習で、課題の解決に向けて適切な資料や教材を自ら選択して学習を行うことに慣れてきているが、自分で選択を行わず、友達と同じものを活用する生徒も見られる。

4 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方の自然環境の特色や関連するその他の事象、そこで生ずる諸課題などについて理解している。 地図や資料を活用し、近畿地方の自然環境や歴史的景観の保全及び、関連する他の事象を読み取る技能を身に付け、近畿地方の地域的特色を理解している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境や歴史的景観の保全に関わる取組を、人口の分布や住民の生活産業及び変化などと関連付けながら、原因と対策、効果の面から多面的・多角的に考察して表現している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点から見た人々の生活や産業の特色を、主体的に追究しようとしている。

5 指導及び評価の計画（全5時間：本時第4時）

過程	時間	□学習活動	知	思	態	◆評価項目<方法（観点）> ○指導に生かす評価、●評定に用いる評価
つかむ	1	<input type="checkbox"/> 資料から近畿地方の地形や気候から、近畿地方の中でも北部・南部・中央部で地域の特色が異なっていることを理解する。 <input type="checkbox"/> 教師が提示する資料から生まれた疑問を基に学習課題を設定する。			○	◇近畿地方の特色を捉え、資料から近畿地方の学習課題を設定することができる。 <観察・ノート・学習支援ソフト・学習デザインシート（態）>
[単元・題材の学習課題・問い等] 近畿地方では、どのように産業の発展と環境の保全を両立させているのだろうか？						
追究する	2	<input type="checkbox"/> 課題解決のための学習計画を立てる。 <input type="checkbox"/> 学習計画に沿って、調べ学習を行う。	○			◆学習課題を解決するための計画を作り環境保全の視点から、写真・図版・地図・雨温図など様々な資料を適切に選択して読み取り、理解している。<ノート・学習デザインシート（知）>
[本時のめあて・課題等] 課題解決に向けて調べ学習をしよう。						

3	<input type="checkbox"/> 課題解決に向けて、調べ学習を行う。	○		◆ 学習課題を解決するための計画を作り環境保全の視点から、写真・図版・地図・雨温図など様々な資料を適切に選択して読み取り、理解している。 <ノート・学習支援ソフト・学習デザインシート（知）>
	<p>[本時のめあて・課題等] 課題解決に向けて調べ学習をしよう。</p>			
4 (本時)	<input type="checkbox"/> 学習課題について、これまでの学び課題解決に活用できるかを振り返り、他者と情報交換をするなどして、自らの学びを見直す。		●	◆ これまでの課題に対する調べ学習の成果を発表し、近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点から見た人々の生活や産業の特色を、主体的に追究しようとしている。 <観察・ノート・学習支援ソフト・学習デザインシート（態）>
	<p>[本時のめあて・課題等] 学習課題に対して、どこまで考えが深まったかを振り返り、友達の意見から新たな視点やヒントを得よう。</p>			
まとめ	<input type="checkbox"/> 学習課題に対して分かったことを白地図にまとめ、発表を行う。	●	●	◆ 近畿地方の地域的特色を理解している ◆ 自然環境や歴史的景観の保全に係る取組を、人口の分布や住民の生活及び産業の変化などと関連付けながら、原因と対策、効果の面から多面的・多角的に考察し、表現している。 <観察・学習デザインシート（知）（思）>
<p>[本時のめあて・課題等] 学習課題の解決に向けて、学びをまとめ、発表しよう。</p>				

II 第4時の学習

1 ねらい

他者と交流して新たな視点や不足している情報に気付く活動を通して、学びを更に深めようとする態度を育てる。

2 展開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (導入3分) S：環境保全について調べているが、よく分からないところがあるので、調べたいな。 S：友達が調べたことを知りたいな。	○生徒が本時の活動の見通しがもてるよう、学習デザインシートを確認する。 ○友達と意見交換が活発にできるように、現時点で学習課題に対しての答えが出せるかを問い掛け、不十分な部分はどこなのかを考えられるよう前時に伝えておく。 ○本時は、答えを出す時間ではなく、自分の仮説の
<めあて・課題等> 学習課題に対して、どこまで考えが深まったかを振り返り、友達の意見から新たな視点やヒントを得よう。	

	穴を見付けることがゴールであると明確に伝える。
<p>2 これまで、調べてきた内容を基に、学習課題に対しての、現時点での答えを説明できるようにまとめる。(展開①8分)</p> <p>S:水資源を守るために、収穫量を調整して数を増やしていることが分かった。</p> <p>S:観光業を盛んにするために、景観を守ることを大切にしていることが分かった。</p> <p>S:環境を守ることが、産業を守ることに繋がっている気がする。</p>	<p>○事前の学習で、調べたことをまとめておくように促す。</p> <p>◎まとめた内容は、学習デザインシートに入力することで、後でほかの生徒も共有できるようにしておく。</p> <p>○学習課題について「自然環境」「人口や都市・村落」「産業」「交通・通信」との関係について説明できるように視点をもたせる。</p> <p>○早くまとめられた生徒は白地図の記入を促す。</p>
<p>3 5人のグループを作成し、発表を行う。その際に、疑問に思ったことや、アドバイスを学習デザインシートに入力を行う。(展開②20分)</p> <p>S:環境は自然環境のことだけでいいのだろうか?</p> <p>S:産業が発展すると、人口は増えていくため環境を壊してしまうのではないか。</p> <p>S:工業が盛んな地域では、どんな環境保全の対策をしているのか、もう少し調べた方が良いのではないか。</p>	<p>◎学習課題について、考えが深まるように、友達の調べた内容に質問をするように促す。</p> <p>○発表の後、必ず質問や感想を言うことをルール付けし、聞くだけのことがないようにする。</p> <p>○どの資料を見て、分かったことなのかを伝えるようにする。</p> <p>○学習デザインシートに疑問やアドバイスを残すことで、後で見返せるようにする。</p> <p>◎学びを見直すための話し合い活動を行い、自分の調べたことが問いの答えにつながるのか考えられるようにする。</p>
<p>4 アドバイスを受けて、調べ足りなかったことや新たに知りたくなったことを調べる。(展開15分)</p> <p>S:まとめるのに、交通との関りが少し弱いので、もう少し調べよう。</p> <p>S:地域によって人口の格差が産業に与える響についてもう少し、考えよう。</p> <p>S:両立は保護するだけでなく、産業を発展させる方法も考えなくてはいけないんだな。</p>	<p>○学習課題の答えが出せるよう、これまで自分が調べたことも振り返り、考えをまとまられるように助言を行う。</p> <p>○机間巡視を行い、調べることが分からない生徒には、動画の紹介をしたり、資料を紹介したり、他の生徒の学習デザインシートを見るように助言を行う。</p> <p>○参考になる考えや、修正を行っている生徒を見取り紹介する。</p> <p>○調べることがないという生徒や、不足を感じていない生徒には、新たに①大阪万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」は学習課題とどう関係するのか。②琵琶湖の水質が悪化したら、近畿地方の生活や産業にはどのような影響が出るのだろうか。③京都の観光客が増え過ぎると、環境保全の観点でどのような問題が起こるのだろうか。の三つの課題を出し考えさせるようにする。</p>

<p>5 本時を振り返り、学習デザインシートに記入を行う。(終末5分)</p> <p>S: 友達の話聞いて、産業発展には交通網の開発が背景にあることが分かった。</p> <p>S: SDGsによってこれまでの産業のとは違う方法で経済発展をしていかないといけないことが分かった。</p> <p>S: 修学旅行で、調べた近畿地方の景観保全を確認してきたい。</p>	<p>○次回のまとめの時間で学習課題についての答えが出せるように、学習デザインシートに本時で新しく分かったことや、友達の考え、意見を記入するように伝える。</p> <p>○友達の意見や考えを聞いて、自分の考えが深まったかを振り返らせる。</p> <p>◆評価項目</p> <p>◆これまでの課題に対する調べ学習の成果を発表し、近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点から見た人々の生活や産業の特色を、主体的に追究しようとしている。</p> <p><観察・ノート・学習支援ソフト・学習デザインシート(態)></p>
--	--

3 板書計画

<p>学習課題：近畿地方ではどのように産業と環境保全を両立させているのだろう。</p>			
<p><めあて> 学習課題に対して、どこまで考えが深まったかを振り返り、友達の意見から新たな視点やヒントを得よう。</p>			
<p>資料</p>	<p>資料</p>	<p>資料</p>	<p>学習デザインシートや学習支援ソフトの映像</p>